

第2回大野市男女共同推進委員会の概要

日 時 令和2年10月27日(火)
午後7時00分～午後8時30分
場 所 結とびあ 302会議室

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 議事

(1) 働く人にやさしい企業応援事業の審査について

- ・商工観光振興課より各企業の取組みを説明し、企業毎に取組みの審査を実施。

(2) 第3次大野市男女共同参画プラン(案)の内容について

- ・事務局が作成中の第3次大野市男女共同参画プラン(案)に沿って概要を説明。
- ・委員からの意見等は次のとおり

○委員：プランの位置付けとして第六次総合計画をはじめとして、様々な計画と男女共同参画プランの関連性を体系的に示せるとわかりやすい。

○委員：大野市の人口や労働に関する数値として、平成27年度の国勢調査のデータを基にしているようだが、データとして古く感じる。

⇒事務局：人口の推移については住民基本台帳のデータを基に修正したい。就労状況関係のデータについては大野市で集計を行っていないため、このままとしたい。現在行っている令和2年度の国勢調査結果が反映できれば一番いいが、速報結果は令和3年3月以降となるため、本プランの策定への反映は間に合わない。

○委員：実施事業において担当課は全て入っているのか。

⇒事務局：表記としては乗っていない課もある。全課に対し、意見徴集を行ったが、施策の方向性や内容に合致する事業がなかったためである。

○委員：全庁で男女共同参画の意識をもつことが大切だと思う。全課が載るようにできないか。合致する事業がない課でも(市役所内の)労働環境づくりに取り組めるのではないか。

⇒事務局：例えば審議会の女性登用の推進など全部局となっているところは全ての課で取り組むことを示しており、表記として載っていない課でも男女共同参画推進に取り組むこととなっている。

○委員：高齢者や障害者、女性のほかに外国人も弱者となりやすいことから、意識付けのためにもプランのどこかに外国人の表記を加えてほしい。

○委員：外国人の技能実習生などから苦情や相談等はないか。

⇒事務局：関係課に確認する。(確認した結果、特に相談等はないとのことだった)

○委員：計画的な人材育成や登用等とあるが、なにか女性登用に関する取組み案はあるか。

⇒事務局：まず、前回の推進委員会での質問にお答えする。市職員の男女の比率は、男性60%、女性40%となっているが、これには、採用試験受験者数が男性70%、女性30%というところの影響もあると考える。そして、課長補佐級の男女比は、男性70%、女性30%、さらに上位の役職の課長、部長級では、男性85%、女性15%で、課長補佐級から課長、部長級になると女性の比率が低いのは、管理職になりたい女性職員が少ないのが一つの理由であると考えられる。女性職員の意識改革が必要であると考ええる。

○委員：コロナウィルスの影響で離職する人がいると考えられるが、そういった相談はあるか。

⇒事務局：関係課へ確認する。(確認した結果、商工観光振興課に相談は1、2件きており内容に応じて福祉こども課やハローワークへ案内している)

○委員：審議会について、第2次プラン策定から10年の間、審議会における女性の割合は、ほぼ横ばいであり、何かを変えていかないと変わらないと思う。市民アンケートについて今回のアンケートは女性のみを対象としており、男性の意見がない。男女共同参画は男性の意識改革も大切である。10年後の策定でも女性のみアンケートとするのか。

⇒事務局：審議会の女性登用については、地域振興室から各課室への働きかけを強化するなど、推進を図っていきたい。男性の意識調査については、今後の計画の見直しの中で考えていきたい。

○委員：各地区の区長への啓発を進めてほしい。また審議会の委員の交代の時期を把握して、女性登用の投げかけを適切なタイミングで行ってほしい。アンケートについては第6次総合計画やほかの計画策定で行われているアンケート等で本プランに活用できないか模索してほしい。

○委員：男女共同参画がなかなか進まない。区長にも説明してほしい。

○委員：数値目標としてあげている課長補佐の割合(40%)と管理職の割合(20%)で40%のうち20%が課長になるということは2人に1人が課長になるこ

とになる。一方で国は女性課長補佐の目標割合を30%としており、女性課長の目標割合を20%としているので3人に2人が課長になる。課長になる割合で言うと後者の方が高いという考え方もある。

○委員：私は団体からの推薦で他の審議会の委員もやっているが委員の推薦の際、審議会事務局より、女性の選出の依頼があった。これからも進めていってほしい。ただ、女性で委員を務めるのはパートナーの理解が必要だと思う。また、親の考え方は子供にも影響してくるので父親の意識改革は必要だと感じる。

○委員：私が住む村部では人口減少も進み、若者も減っているため、委員の負担も増えている。地域づくりも難しくなっている。

⇒事務局：人口が減ってきており、今までできていた地域づくりが難しくなっている。これからは一層女性の力が求められることになっていく。地域振興室でも少子化・高齢化、人口減少の中でどうしたら地域づくりができるか、先進地視察を行いながら検討しているところである。

4. その他

- ・令和2年度男女共同参画推進セミナーの開催について事務局より説明し、周知を依頼。

5. 閉会あいさつ